

日本の火山活動概況（2015年7月～9月）

気 象 庁

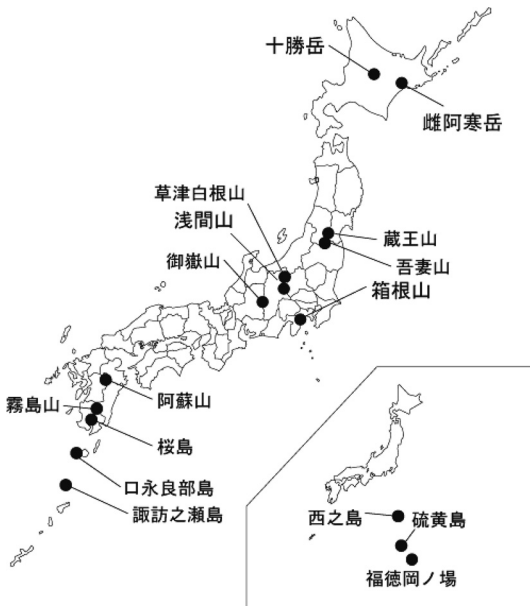


図 1. 2015年7月～9月に目立った活動があった火山

雌阿寒岳 (43° 23' 12" N, 144° 00' 32" E)

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする微小な火山性地震は、4月中旬以降増減を繰り返しながら多い状態となり、地震回数(速報値)は7月26日には183回、27日には185回発生した。8月は日回数100回を超える日が1日あったものの、全体としては徐々に減少し、8月下旬以降は1日あたり10回程度以下で推移している。7月3日には継続時間が短く振幅の小さい火山性微動を観測した。雌阿寒岳で火山性微動が観測されたのは2015年3月9日以来である。

7月27日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ第3・第4火口の地熱域が拡大しているのが認められ、7月28日に実施した現地調査では、ポンマチネシリ96-1火口で白色の噴煙が勢いよく上昇していることを確認した。また、ポンマチネシリ96-1火口南側で実施している全磁力連続観測によると、全磁力は2014年3月以来概ね横ばいで推移していたが、2015年3月中旬以降は減少傾向を示しており、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下で

は2015年3月中旬以降降熱活動が活発化している可能性がある。

十勝岳 (43° 25' 04" N, 142° 41' 11" E)

7月13日から14日にかけて、62-2火口の浅いところ(海拔0km以浅)を震源とする微小な地震が一時的に増加した。7月14日には旧噴火口付近の深さ約1kmを震源とするマグニチュード1.0の地震が発生した。この地震で山麓の吹上温泉地区では震度1相当の揺れがあったものと推定される。十勝岳で発生した地震により、周辺で揺れを感じたのは2012年12月2日以来である。

62-2火口とその周辺では、引き続き熱活動が活発な状態が継続している。今期間実施した現地調査及び国土交通省北海道開発局の協力による上空からの観測では、振子沢噴気孔群の地熱域の広がりを確認した。また、振子沢噴気孔群の刺激臭を伴った噴気や62-2火口南縁と振子沢噴気孔群の間の地熱を伴ったわずかな亀裂、前十勝頂上付近の複数の列状の噴気も確認した。

GNSSによる観測では、2006年以降、62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が認められている。火口に近い前十勝観測点では観測点周辺の局所的な変動と見られる変化が5月頃からみられていたが、7月以降鈍化している。また、望岳台-翁温泉-湯の滝を結ぶ基線では5月頃からわずかな伸張がみられ、62-2火口直下浅部よりも深い山体内のごくわずかな膨張の可能性が考えられるが、この伸張は8月以降鈍化している。

蔵王山 (38° 08' 37" N, 140° 26' 24" E)

6月17日以降、火山性地震はやや多い状態となっていたが、7月4日からは少ない状態を経過した。

7月7日及び9月30日に実施した現地調査では、御釜とその周辺に地熱や噴気はみられなかった。

7月7日から9日にかけて実施したGNSS繰り返し観測では、2014年と比較して御釜周辺の基線で伸びの変化がみられた。GNSS連続観測では、一部の基線で2014年10月以降わずかな膨張を示す地殻変動が観測されていたが、2015年6月頃から停滞している。また、坊平観測点(山頂の南西5km)に設置している傾斜計では、南東上がりの変化が継続している。

吾妻山 (37° 44' 07" N, 140° 14' 40" E)

今期間の火山性地震の月別の回数は、7月は154回とやや多い状態であった。また、8月は44回と少なく、9

月は96回とやや多い状態で経過した。

噴気活動はやや活発な状態が続いており、8月11日及び12日に実施した現地調査では、大穴火口内で地熱域の拡大とその領域の一部からの弱い噴気を確認した。また、2013年以降拡大がみられている地熱域を引き続き確認した。

浄土平観測点の傾斜計では、2014年4月以降緩やかな西側（火口方向側）上がりの変動が継続していたが、2015年7月頃から停滞している。GNSS連続観測では、2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていたが、2015年6月頃から停滞している。また、国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014年12月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動が見られていたが、2015年7月頃から停滞している。

草津白根山 (36° 38' 38" N, 138° 31' 40" E)

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加したが、2014年8月下旬以降は概ねやや少ない状態で経過している。

地殻変動観測によると、湯釜付近の膨張を示す変動が認められていたが、4月頃より鈍化している。また、湯釜周辺に設置している東京工業大学の傾斜計によると、2014年3月からみられている湯釜付近浅部での膨張を示す変動は継続している。

東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による2014年5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、同年7月以降停滞している。

浅間山 (36° 24' 23" N, 138° 31' 23" E)

6月19日の噴火以降、噴火は観測されていない。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量が1日あたり600~2,200トンと引き続き多い状態で経過している。また、火口からの噴煙は白色で、火口縁上100~900mで経過しており、噴煙量は6月以降増加傾向がみられる。

山頂火口直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は、4月下旬から増加している。8月以降やや回数が減少しているが、引き続き多い状態で経過している。火山性微動は、8月19日以降やや増加していたが、9月以降は少ない状態で経過している。

光波測距観測では、6月頃から山頂と追分の間で縮みの傾向がみられており、山頂部のごく浅いところの膨張によるものであると考えられる。また、傾斜計による地

殻変動観測では、6月上旬頃からの緩やかな変化が継続している。国土地理院のGNSSの観測でも、5月頃からわずかな伸びがみられる。これらは浅間山の西側のやや深いところを膨張源とする変化によるものと考えられる。

御嶽山 (35° 53' 34" N, 137° 28' 49" E)

火山活動は低下した状態が継続しており、2014年10月中旬以降、噴火は観測されていない。

三岳黒沢及び鈴蘭高原に設置している遠望カメラ、中部地方整備局が滝越等に設置しているカメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上100~1,000mの高さで経過した。また、上空の風が弱いときには一時的に最高で1,300mの高さまで上がった。

7月20日に継続時間約3分の火山性微動が発生した。火山性微動が観測されたのは2014年11月23日以来である。この火山性微動の発生に伴い、傾斜計にわずかな山側（北西）上がりの変化が観測された。この火山性微動の発生直後を含め、7月19日から20日にかけて、火山性地震が38回（19日12回、20日26回）と一時的に増加した。火山性地震の日回数が20回を超えたのは、2015年2月14日（22回）以来である。また、7月31日には規模の大きな火山性地震が発生したが、この地震の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられなかった。それ以外の期間は火山性地震は少ない状態で経過したが、2014年8月以前の状態には戻っていない。

箱根山 (35° 14' 00" N, 139° 01' 15" E)

6月29日16時から7月1日にかけて、断続的に空振を観測した。大涌谷に設置している遠望カメラでは、多量の噴気や天候不良のため、空振に伴う現象の発生状況は不明であったが、空振が多発する前後で火口の生成や拡大が認められた。このことと降灰を確認していることなどから、6月29日から7月1日にかけてごく小規模な噴火が断続的に発生していたものと考えられる。

7月21日に実施した現地調査では、15-1火口で10秒間程度、噴石や火山灰を含む噴出現象を観測した。

今期間実施している現地調査及び大涌谷に設置している遠望カメラによる観測では、15-1火口や噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き蒸気が勢いよく噴出しているのを確認している。また、赤外熱映像装置による観測では、引き続き15-1火口の東側で高温領域を確認した。

火山性地震は7月以降減少しており、少ない状態で経過している。今期間、箱根町湯本で震度1を観測する地震は3回（7月、8月、9月それぞれ1回）発生した。

気象庁と温泉地学研究所が設置している傾斜計及び気象庁の湯河原鍛冶屋の体積ひずみ計では、8月以降火山活動に関連する変動はみられていない。国土地理院のGNSS連続観測によると、箱根山周辺の基線で4月から山体の膨張を示す地殻変動がみられていたが、8月下旬頃からその傾向は停滞している。

西之島 (27° 14′ 49″N, 140° 52′ 28″E)

海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認された。

8月19日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、新たな陸地の大きさは、東西方向に約1,980m、南北方向は約1,970m、面積は約2.71km²になっているのが確認された。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

海上自衛隊からの情報提供によると、8月7日に島北部の北の鼻の海岸付近で断続的にごく小規模な噴火が発生した。また、8月27日には北の鼻付近で20~30m程度の噴気が上がっているのを確認した。ミリオンダラーホールでは、8月18日に実施した現地調査で泥噴跡を確認した。

火山性地震は一時的に増加したが、全体的にはやや少ない状態で経過した。8月7日には、北の鼻の海岸付近で発生した噴火によると考えられる火山性微動を観測した。

GNSS連続観測によると、地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し、2015年3月頃から隆起速度が上がっている。また、国土地理院のGNSS観測によると2015年4月中旬頃から西向きの変動速度が上がっていたが、7月以降は以前の速度まで戻っている。

福徳岡ノ場 (24° 17′ 05″N, 141° 28′ 52″E)

8月18日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、南硫黄島の北東、福徳岡ノ場より北西方向の位置(北緯24度18分、東経141度27分)付近で幅100m程度の変色水が北西-南東方向に伸びているのを確認した。

福徳岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53′ 01″N, 131° 05′ 49″E (中岳))

中岳第一火口では、9月14日09時43分に小規模な噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上2,000mまで上っ

た。この噴火に伴い小規模な火砕流が発生し、火口周辺に流下した。また、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口周辺に飛散するのを確認した。噴火発生前の09時18分頃から火山性微動の振幅が増大し、噴火発生の09時43分頃からさらに増大した。噴火に伴う空振は古坊中観測点(中岳第一火口の南西約1.2km)で32Paであった。

9月14日に九州地方整備局の協力により、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が実施した上空からの観測では、中岳第一火口周辺に変色域が認められ、南東方向に約1.3km、北東方向に約1.0km広がっているのを確認した。この変色域は、概ね火砕流が流下した領域に対応すると考えられる。また、赤外熱映像装置による観測では、火口周辺で顕著な高温域は認められず、比較的低温の火砕流であったと考えられる。同日に実施した現地調査及び聞き取り調査によると、火口より西側の熊本県北部から福岡県の一部にかけて降灰を確認した。

9月14日の噴火前、8月8日にごく小規模な噴火が発生した。その後、9月3日及び9月10~11日にかけてもごく小規模な噴火が発生した。これらの噴火では火口縁上200~600mの噴煙が上がった。

2015年6~9月に実施した火口南側からの現地調査では、141火孔内で湯だまりを確認し、赤外熱映像装置による観測では湯だまりの表面の最高温度は80~90℃程度であった。湯だまりを確認したのは2014年7月8日以来である。湯だまり内のごく小規模な土砂噴出を確認している。また、141火孔内では所々で100~400℃程度の高温な部分があるのを確認した。時々鳴動を確認した。

7月31日に実施した火口南西側からの現地調査では、141火孔南西側に新たに噴気孔が形成されているのを確認し、噴気孔の温度は約600℃と高い状態であった。なお、この噴気孔は9月11日に実施した調査で、土砂で埋没しているのを確認している。

今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり900~1,900トンと概ね多い状態で経過した。

中岳第一火口周辺で観測された9月11~30日の降灰量は、阿蘇山特別地域気象観測所で2,562g/m²(7月及び8月はなし)であった。

火山性地震は7月及び8月に時々発生し、9月は概ね多い状態で経過した。孤立型微動は、7月は多い状態で経過し、8月及び9月は概ね多い状態で経過した。

GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む古坊中-長陽(国)の基線では、8月頃からわずかな伸びの傾向が認められる。

霧島山（新燃岳）（31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E）

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

火山性地震は時々発生し、月回数は7月が30回、8月が13回、9月は7回であった。震源は、新燃岳付近のごく浅いところから海拔下2 km に分布した。

GNSS 連続観測では、新燃岳周辺の一部の基線で、わずかに伸びの傾向が認められる。一方、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向が見られていたが、2015年1月頃から停滞している。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）（31° 56′ 49″N, 130° 51′ 14″E（硫黄山））

えびの高原（硫黄山）周辺では、7月5日及び26日に火山性地震が増加し、同月の月回数は60回であった。同月26日に継続時間が約2分30秒の火山性微動が発生した。この周辺で火山性微動が発生したのは2014年8月20日以来である。火山性微動の発生に伴い、傾斜計で硫黄山の北西が隆起するような変動が観測された。また、9月2日にも振幅の小さな火山性微動が発生した。継続時間は約3分であった。

7月及び9月に実施した現地調査では、硫黄山及びその周辺では噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測でも、地表面温度分布に特段の変化は認められなかった。

7月27日、28日及び9月30日に実施した全磁力線り返し観測では、硫黄山の北側の観測点では南側の観測点に比べてわずかに増加傾向が認められている。今後の変化に注意が必要である。

GNSS 連続観測によると、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線で、わずかな伸びの傾向が認められる。

桜島（31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E（南岳））

昭和火口では、噴火活動が継続した。噴火の回数は7月が21回（そのうち爆発的噴火は14回）、8月が6回（そのうち爆発的噴火は5回）、9月が96回（そのうち爆発的噴火は46回）であった。

8月15日07時頃から南岳直下を震源とする火山性地震が多発し、南岳の地下に急激にマグマが貫入したことを示す山体膨張が、桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計で観測されたが、火山性地震は8月16日以降急激に減少し、傾斜計や衛星による観測結果では、8月17日以降に地盤の隆起はみられていない。観測データの状況から、南岳の地下に貫入したマグマの浅部への上昇は停止し、深部からの新たなマグマの貫入も生じていないと考えられる。

始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す長期的な伸びの傾向は継続している。島内では、2015年1月頃から伸びの傾向がみられていたが9月以降、大きな変動はみられていない。

火山性地震の月回数は、7月は少ない状態で経過した。8月は15日には1,044回と多発したが、その後減少した。同日に発生した地震のうち、震度1以上の地震が4回で、島内での最大震度は2であった。

噴火に伴い火山性微動が観測され、中には空振を伴った振幅の大きなものもあった。

今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり80～600トンと概ね少ない状態で経過した。

鹿児島地方気象台における月（合計）降灰量は、7月が6g/m²、8月が0.5g/m²未満、9月が4g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、7月が約6万トン、8月が約9万トン、9月が約4万トンと、少ない状態で経過した。

口永良部島（30° 26′ 36″N, 130° 13′ 02″E）

口永良部島では火山活動の高まった状態が継続している。

新岳では、6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は観測されておらず、白色の噴煙が火口縁上700m以下で経過した。

7月24日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が九州地方整備局の協力を得て上空からの観測を実施し、新岳火口から、時折、100～200mの白色の噴煙が上がっているのを確認した。また、西側割れ目付近および新岳火口内北側斜面から噴気が出ているのを確認した。赤外熱映像装置による観測では、前回（6月20日）同様、新岳火口の西側割れ目付近で熱異常域が認められた。古岳及び新岳東側斜面では、熱異常域は認められなかった。

今期間に産業技術総合研究所、東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び気象庁が実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり100～700トンと6月（800～1,700トン）に比べ減少した。

火山性地震は8月上旬まで時々多く発生していたが、その後は減少した。

GNSS 連続観測では、2014年8月3日の噴火により火口付近の観測点が障害となっているため、火口付近の状況は不明である。湯向へりポートや上屋久2（国土地理院）湯向の基線では、5月29日の噴火以降に特段の変化は認められない。

諏訪之瀬島（29° 38′ 18″N, 129° 42′ 50″E（御岳））

御岳火口では、爆発的噴火が9月に89回発生し、特に

9月24日には69回と多く発生した。このほか、噴火も時々発生し、噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,500mまで上がった。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、7月31日、8月1日、2日、9日及び9月7日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が観測された。また、9月24日からの爆発的噴火では、島内でガラスやふすま等の揺れが感じられた他、爆発音や鳴動が確認された。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責：気象庁地震火山部火山課 輪島久仁子)

○公募等

締切等が過ぎているものも記録のため掲載してあります。

最新の情報につきましては、メーリングリスト等にて随時ご案内しております。

○人事公募

【気象研究所】

1. 職名・人員：火山研究部 研究官 4名
国家公務員研究職への採用
2. 職務内容：火山活動評価・予測の高度化に関する研究に従事する。
3. 応募資格：
 - ① 採用時において、博士の学位を有している者
 - ② 地球物理学あるいは地球化学の分野での観測的手法による火山活動評価・予測に関して、相当の見解と研究業績を持っている者
 - ③ 上記分野の火山観測についての十分な経験を持っている者

次に該当する方は応募できません。

- (1) 国家公務員法第38条の規定により国家公務員となることができない者
 - ・成年被後見人、被保佐人(準禁治産者を含む)
 - ・禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わるまでの者又はその刑の執行猶予の期間中の者その他その執行を受けることがなくなるまでの者
 - ・一般職の国家公務員として懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者
 - ・日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結

成し、又はこれに加入した者

- (2) 国家公務員法第81条の2(定年による退職)に該当する者

4. 公募締切：平成27年10月13日(火)17時(必着のこと)

5. 提出書類：

- ① 履歴書(市販の用紙可、写真貼付)1通
- ② 学位取得(見込)証明書1通
- ③ 主要研究業績一覧表(論文、著書、解説)1通
- ④ 主要論文の別刷り(5編以内、複写可)各1通
- ⑤ これまでの研究内容と今後の研究の抱負(3,000字程度)1通

6. 書類提出先及び照会先：

〒305-0052 つくば市長峰1-1

気象研究所総務部総務課人事係 秋葉喜代美

Tel：029-853-8555(直通)

Fax：029-853-8549(総務課)

(提出書類は封筒の表に「火山研究部研究官応募書類在中」と朱書きし、書留で送付のこと)

7. 選考方法：気象研究所選考委員会による書類審査(第1次)、面接(第2次)(平成27年11月上旬予定)を経て採用を決定する。

8. 採否の通知：書面により応募者あてに通知する。

9. 採用時期：平成28年1月1日以降できるだけ早い時期

10. 備考：研究官の職位は大学における助教ポストに相当。任期付ではない。

11. 注意事項：応募の秘密については厳守します。また、応募書類については、選考の目的に限って使用し、選考終了後は、研究官で採用された方の情報を除き、全ての個人情報(当方で責任を持って処分します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月11日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 職種：特任研究員(特定有期雇用教職員)

2. 研究テーマ：以下の12テーマ(順不同)を対象とする。

- (1) 高エネルギー素粒子地球物理学研究センターの4つの中心課題のいずれか(大久保修平)
 - (a) ボアホール埋設型ミューオン透視技術の開発
 - (b) 原子核乾板でありながら時間変動を追えるミューオンカメラの開発
 - (c) ニュートリノを用いた地球内部構造研究への参画

- (d) 素粒子検出エレクトロニクス技術を用いた、低雑音ミュオン望遠鏡の開発
 - (2) 古地震学調査に基づく海溝型巨大地震の履歴(佐竹健治)
 - (3) 地震波干渉法や異方性解析法等で火山周辺の地震波形データを解析し、応力場とその時間変化を推定する研究(大湊隆雄)
 - (4) 南海トラフ域のスロー地震に関する研究(小原一成)
 - (5) 日本列島3次元不均質地下構造の解明を目指した地震波動伝播シミュレーション研究(前田拓人)
 - (6) 非平面形状や摩擦の不均質性を考慮した地震発生モデル解析(亀 伸樹)
 - (7) 海底電磁気観測分野(歌田久司)
 - (8) スロー地震の理論的研究(波多野恭弘)
 - (9) 広帯域海底地震計波形記録の解析(実体波(RF, SWS)および表面波分散の合同解析)(川勝 均)
 - (10) 高度波形解析による標準日本列島モデルの構築(竹内 希)
 - (11) 火山体直下のマグマ供給系の解明(武尾 実)
 - (12) 地殻・マントルレオロジーの実験的研究(平賀岳彦)
3. 募集人員：若干名
4. 応募資格：着任時に博士の学位を有する者。
応募前に各テーマの担当教員に連絡し、よく相談すること。
5. 採用予定時期：2016年4月1日以降の着任可能な日。
6. 任期・再任：任期は着任日から2017年3月31日まで。再任は1回のみ。
7. 待遇：「東京大学特定定期雇用教職員の就業に関する規程」および「東京大学年俸制給与の適用に関する規則」による。
8. 選考方法：原則として書類選考。ただし面接を行うこともある。
9. 提出書類：
- ・履歴書(東京大学統一様式 http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html よりダウンロードのうえ使用してください。記入例は「記入例7 [理系教員] を参照」)
 - ・研究業績リスト(査読の有無に分類)
 - ・主要論文の別刷り3編(学位論文は要旨のみ)、コピーも可。
 - ・研究歴(A4用紙2枚以内)
 - ・採用後の研究計画(A4用紙2枚以内)、研究テーマ(上記2)を明記のこと。

・応募者について意見を伺える方1~2名の氏名及び連絡先。

10. 応募締切：2015年11月27日(金) 必着

11. 提出書類送付先：

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム(人事)

電話 03-5841-5668

注意：封筒表に「特任研究員応募書類在中」と朱書きの上、書留にて郵送のこと。

12. 問い合わせ先：

(公募全般について) 東京大学地震研究所物質科学系研究部門 中井俊一

電話：03-5841-5698

電子メール：snakai@eri.u-tokyo.ac.jp (各テーマについて) 各担当教員(連絡先などの問合せは上記中井まで)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月23日送信しました)

【北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター】

1. 職種・人員：講師または助教・1名

2. 研究教育内容：地震や地殻変動の陸域観測を中心とした地球物理学的手法に基づき、災害の軽減に貢献するための地震観測研究を実施する。北海道大学が実施する国内外の地震・地殻変動観測研究および大地震時の臨時観測研究を主体的に推進する。また、本学教員と協力し、学部教育・大学院教育や社会連携等にも携わる。

3. 着任予定時期：採用決定後できるだけ早い時期

4. 応募資格：博士の学位を有する者、または採用時に博士の学位取得見込みの者。当センターの職員、学生および関係機関の職員と日本語で必要最低限なコミュニケーションが可能な者。

5. 任期：講師として採用の場合、任期に定めない。助教として採用の場合は、原則として5年の任期制が適用される。ただし、着任後5年目の業績審査により、さらに5年間の再任も可能である。なお、再任前および再任後の任期終了時に行われる業績審査に適合すれば、その後は任期の定めのない助教となることができる。

6. 応募書類：

(1) 履歴書(国内外の学会活動、受賞歴、国内外のプロジェクト研究参加歴、各種研究費の受領歴、教育実績、学位審査履歴、社会連携の実績などを含む)。なお、2013年4月1日以降、本学に在職経

験（非常勤講師・TA・RA・TF・短期支援員等を含むすべての職種）のある場合は、当該履歴を漏れなく記載すること。

- (2) これまでの研究経過（A4用紙2枚程度）
- (3) 研究業績目録（以下のように区分して記載）
 - A. 査読のある論文および総説
 - B. 査読のない論文および総説
 - C. 著書
 - D. 解説、報告書などその他の出版物で特に参考になるもの
- (4) 主な論文の別刷または著書 5編（複写可）
- (5) 今後の研究計画（北海道における地震や地殻変動の観測研究の将来展望を含む）と教育の抱負（A4用紙2枚程度）

なお、応募書類は返却しない。

7. 応募の締め切り：2015年12月18日。封筒の表に「採用選考応募書類」と朱書きし、書留にて郵送すること。
8. その他：選考の過程で面接を実施する場合がある。その際、旅費は支給しない。選考は、応募者の性別に一切関係なく実施する。
9. 書類の送付先および問合せ先：

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究院
附属地震火山研究観測センター 村上 亮
TEL：011-706-4484
Email：mccopy_mm@mail.sci.hokudai.ac.jp

10. 関連情報：

当センターの概要、メンバー等は、次のホームページ参照 <http://www.sci.hokudai.ac.jp/isv/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月9日送信しました）

【東京工業大学 理学院 地球惑星科学系】

助教 1名（専任）（任期5年、再任1回可3年）

専門分野 地球惑星物質学

応募締切 2016年1月4日

連絡先

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 12-20
東京工業大学大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻
綱川秀夫

詳細 web ページ：

http://www.geo.titech.ac.jp/epss/office/jinji/Assit_EPS_2016_J.pdf

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月9日送信しました）

【北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター】

1. 職名・人員：非常勤研究員・若干名。
2. 募集専門分野：地震学・火山学・その基礎となる分野。（非常勤研究員は地震学・火山学に関する研究を地震、地殻変動、電磁気、津波等の手法を用いて推進する。）
3. 応募資格：
 - (1) 採用時に博士の学位があること。
 - (2) 2016年4月1日現在で35歳未満。
4. 任用期間：原則として採用日から3年間。ただし契約は1年度毎。
5. 着任時期：2016年4月1日。
6. 報酬：学歴によるが月額約30万円。（短時間勤務職員として採用するため、社会保険の適用はありません。ただし、労災保険および雇用保険の適用があります。）
7. 研究費：研究員には研究費を手当てします。（2015年度の場合年間約25万円。）
8. 応募書類：（応募書類は個人情報保護に留意して取り扱いいます。返却は致しません。）
 - (1) 履歴書。なお、2013年4月1日以降、本学に在職経験（非常勤講師・TA・RA・TF・短期支援員等を含むすべての職種）のある場合は、当該履歴を漏れなく記載のこと。
 - (2) 研究業績一覧（査読つき論文、査読なし論文、その他、著書、報告書等で特に参考になるもの等）。
 - (3) 研究の計画と抱負（A4紙1枚程度）。
9. 応募の締め切り：2015年12月25日必着。
10. 書類の提出先および問合せ先

060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター 村上 亮
TEL：011-706-4484 / FAX：011-746-7404（代表）
Email：mccopy_mm@mail.sci.hokudai.ac.jp
（「非常勤研究員応募書類」と朱書の上、書留にて送付してください。）
11. 当センターの概要は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/isv/>

 （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月16日送信しました）

【弘前大学大学院理工学研究科(理工学部自然エネルギー学科併任)】

1. 公募人員：教授3名，助教1名
2. 所属：理工学研究科(理工学部自然エネルギー学科併

任)

3. 研究分野：自然エネルギーに関する諸分野

自然エネルギーに関する諸問題を俯瞰的視点から解決できる人材の育成と、エネルギー問題の解決を通して地域のニーズに応えることを目標として、下記の専門分野の教員を公募します。

○教授 A (2名)：①機械工学、熱工学などに関する分野、あるいは②エネルギー資源などに関する分野；

○教授 B (1名)：エネルギーマネジメント、エネルギー貯蔵・輸送などに関連する分野；

○助教 (1名)：自然エネルギー・再生可能エネルギーに関連する分野；

詳細は以下の URL をご覧下さい。

http://www.mech.hirosaki-u.ac.jp/job_opening/

(こちらの URL からご覧いただくことができます。

http://www.mech.hirosaki-u.ac.jp/job_opening/)

4. 採用予定時期：平成 28 年 4 月 1 日

5. 応募資格：上記 URL に掲載の文書をご覧ください

6. 任期について：上記 URL に掲載の文書をご覧ください

7. 提出書類：【提出書類は返却しません】

上記 URL に掲載の文書をご覧ください

8. 応募締切：平成 27 年 11 月 30 日 必着

9. 問い合わせ先：弘前大学 大学院理工学研究科長
宮永崇史

TEL：(0172)39-3501, E-mail：takaf@hirosaki-u.ac.jp

10. 応募書類提出先：

上記 URL に掲載の文書をご確認の上、簡易書留郵便で送付してください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 16 日送信しました)

○その他の公募

【京都大学防災研究所】

京都大学防災研究所は平成 28 年度共同研究の公募を開始しました。

防災研究所は来年度から共同利用・共同研究拠点の二期目として、国際共同研究の枠組みを新たに設けるなど、共同利用・共同研究をさらに推進します。

共同研究の詳細については、下記の防災研 HP をご参照ください。

共同利用・共同研究のトップページ：

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/collaborative/>

ニューズトピックスのページ：

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/news/6158/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 18 日送信しました)

【海洋研究開発機構】

■内容

国立研究開発法人海洋研究開発機構では、平成 27 年 6 月からフル稼働した最新鋭のスーパーコンピュータ「地球シミュレータ」の平成 28 年度公募課題を募集いたします。

地球シミュレータ公募課題は、地球シミュレータ運営基本方針に基づき、我が国の海洋地球科学と関連分野の研究を推進するため、広く利用の機会を設けるものです。みなさまからのご応募をお待ちしております。

募集期間：平成 27 年 11 月 18 日 (水) -

平成 28 年 1 月 6 日 (水) 17 時必着

詳細は以下の URL をご覧ください。

<http://www.jamstec.go.jp/es/jp/project/h28koubo-es.html>

■連絡先

〒236-0001 神奈川県横浜市金沢区昭和町 3173-25

国立研究開発法人海洋研究開発機構 横浜研究所
地球情報基盤センター 情報システム部 基盤システムグループ ES 公募係

TEL：045-778-5770

E-mail：es_oubo@jamstec.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 26 日送信しました)

○シンポジウム等のご案内

【火山・地震の観測と予測と情報通信技術に関する情報・意見交換会のご案内】

火山学会秋季大会参加者御中

火山・地震の観測と予測と情報通信技術に関する情報・意見交換会のご案内です。

次世代安心・安全 ICT フォーラムでは、火山・地震の観測と予測と情報通信技術に関する情報・意見交換会を開催致します。

今回の、情報・意見交換会の開催の目的は、火山・地震の観測と予測に関する研究者と、情報通信技術研究者との情報・意見交換会を通じて、分野間の研究のニーズとシーズの相互理解を深めることです。こんな技術が有ったら、もっと観測が楽になり予測も正確になるのにと、思っていないですか？

レーダーやカメラでの火山の噴煙の観測・計測や、データの伝送に、情報通信技術が有効であると考えていますが、それ以外のニーズがあるかもしれません。

これまで、火山・地震の研究者と、情報通信技術研究

者が意見・情報交換するような機会がありませんでしたので、是非積極的に参加をご検討頂きたくお願い申し上げます。

会合のタイトル：

「火山・地震の観測と予測と情報通信技術に関する情報・意見交換会」

開催会場：

富山大学共通教育棟 A 棟 32 番教室

五福キャンパス 〒930-8555 富山市五福 3190 番地

<http://www.u-toyama.ac.jp/access/gofuku/index.html#address>

<http://www.u-toyama.ac.jp/access/gofuku/index.html#gofuku>
Campus

開催時間：

9 月 30 日（水）11：00～15：00

情報通信関係の研究者は、この時間帯に待機致しておりますので、お昼休みの 12：00～13：00 の間などに参加される事も可能かと存じます。

愛知工業大学教授（フォーラム災害・環境監視技術検討会主査）

横田 崇

鹿児島大学教授

真木雅之

気象研究所火山研究部長

山里 平

次世代安心・安全 ICT フォーラム フォーラム会長

首都大学東京教授

福地 一

フォーラム事務局次長

田中健二

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 14 日送信しました）

【「巨大地震と火山活動」第 2 回研究会 地震研究所特定共同研究 (B)・新学術科研費「地殻ダイナミクス」共催】

3.11 巨大地震を経験した日本列島において今後いかにして火山活動が活発化していくかを解明するために昨年に引き続き第 2 回研究会を開催します。昨年 11 月の第 1 回研究会で話題となった「1611 年地震と 17 世紀の北海道南西部の火山活動活発化事例」をさらに深く検討するために、今年は北大を会場として研究会を開催します。興味のある方々の積極的な参加をお願い致します。

参加を希望される方は東工大・高橋栄一にメールでご連絡ください。

「巨大地震と火山活動」第 2 回研究会 暫定プログラム
.....

日時：10 月 10 日、11 日

場所：北海道大学 理学部 講義室

（皆さんからの講演申し込みにより今後さらにプログラムを充実します）

10 月 10 日 10：00～17：00

1：17 世紀における南西北海道火山活性化

中川光弘（北大）：完新世の北海道火山活動履歴から

見た南西北海道 3 火山の 17 世紀一斉噴火の意義

佐竹健治（東大）：17 世紀に千島海溝で発生した巨大地震

2：東北地域火山の現況

三浦 哲（東北大）：東北地域の火山の現況（仮題）

小菅正裕（弘前大）：深部低周波地震の活動の時間変化

伴 雅雄（山形大）：岩石学から見た蔵王マグマ溜まりの現状

高田陽一朗（京大）：地殻変動から推定する火山帯の不均質構造

藤田英輔（防災科研）：東北地方太平洋沖地震によるマグマ溜まり影響評価

吉田武義（東北大）：「東北日本弧、後期新生代に形成されたカルデラにおける、3.11 東北地方太平洋沖地震による誘発地震の発生」

18 時：懇親会

10 月 11 日 9：00～16：00

3：火山体の深部構造とダイナミクス

中島淳一（東北大）：トモグラフィーから見た火山体深部構造

高橋栄一（東工大）：岩石学から見た火山体深部構造
大久保修平（東大）：重力から推測する火山体配管状況

高橋正樹（日大）：マグマ供給系に関する岩石学モデルと地球物理学的モデルの統合像

下司信夫（産総研）：始良入戸噴火（29 ka）の推移とカルデラ陥没タイミング

4：火山活性化過程の事例と展望

市原美恵（東大）：新燃岳 2011 年噴火の噴火直前過程

栗田 敬（東大）：噴火準備過程：伊豆大島 1986 の事例（仮題）

栗谷 豪（北大）：休眠中の火山の活性化プロセスについてのレビュー

高田 亮（産総研）：巨大噴火に至る噴火履歴のレビュー：タンボラ、クラカタウ、ピナツボを例にして一

石川有三（産総研）火山噴火と地震の同時表示で分かること

総合討論：火山活動活性化過程のモデル化と今後の展望
世話人：

- 高橋栄一（東京工業大学理工学研究科）
<etakahas@geo.titech.ac.jp>
- 栗田 敬（東京大学地震研究所）
<kurikuri@eri.u-tokyo.ac.jp>
- 高田陽一郎（北海道大学理学研究科）
<takaday@mail.sci.hokudai.ac.jp>
- 中川光弘（北海道大学理学研究科）
<mnakagawa@mail.sci.hokudai.ac.jp>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月1日送信しました）

【公開合同シンポジウム「地質災害と地下水」】

日本火山学会会員の皆様
日本水文科学会（<http://www.suimon.sakura.ne.jp>）では、日本応用地質学会と合同で、地下水と地質災害に関するシンポジウムを下記の通り開催致します。

参加費は無料、事前登録も不要でどなたでも参加頂けます。

会場アクセス等については2015年度日本水文科学会学術大会のwebページ

<http://www.suimon.sakura.ne.jp/post.html>

大会プログラム

<http://www.suimon.sakura.ne.jp/水文科学会プログラム150929.pdf>

をご参照ください。

多数の方のご参加をお待ちしております。

***** 記 *****

公開合同シンポジウム「地質災害と地下水」

主催：日本水文科学会・一般社団法人日本応用地質学会
後援：国立研究開発法人産業技術総合研究所

日時：2015年10月9日（金） 13：00-17：55

会場：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 つくば中央第一 共用講堂

参加費：無料（交流会参加費：一般3000円）

問い合わせ先：安原正也（立正大学地球環境科学部）
048-539-1647；masaya-yasuhara@ris.ac.jp

「趣旨」：地質災害の発生に果たす地下水の役割、また地質災害によって引き起こされる各種地下水問題について最新の研究結果、対策技術を紹介・議論し、地質災害と地下水の複合的な関係についての知見の集積を図るとともに、広く参加者に情報を提供する。

「プログラム」

13：00-13：05 開会挨拶

日本水文科学会会長 鈴木啓助

13：05-13：10 趣旨説明 安原正也（立正大）

13：10-13：45

J0 長田昌彦（埼玉大）基調講演「地質災害と地下水」

13：45-14：15

J1 松四雄騎（京大）「水文地形学的アプローチによる斜面崩壊予測の現状と課題」

14：15-14：45

J2 川邊禎久（産総研）「伊豆大島2013年10月土砂災害—火山灰層の土石流化—」

14：45-15：15

J3 風間卓仁（京大）「火山地域における地下水モニタリングの重要性—火山噴火予測のために—」

15：15-15：30 休憩

15：30-16：00

J4 駒井 武（東北大）「津波堆積物の調査と地下水・土壌への影響」

16：00-16：30

J5 塚本 斉（産総研）「福島第一原子力発電所廃炉・汚染水対策における地下水問題」

16：30-17：00

J6 守田 優（芝浦工大）「都市域の地質災害と地下水—東京を例に—」

17：00-17：20 休憩

17：20-17：40 質疑応答

17：40-17：45 コメント

木谷日出男（国際航業KK）

17：45-17：50 コメント 林 武司（秋田大）

17：50-17：55 閉会挨拶

日本応用地質学会副会長 木谷日出男

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月1日送信しました）

【火山研究プロジェクトの説明と火山観測研究の将来についての検討会】

火山観測・研究にかかわる研究者の皆様すでに別ルートでお聞きになっている人も居られると思いますが、会場も変更しましたので改めて広くお知らせいたします。昨年9月の御嶽山噴火以降、政府から「火山研究を強化する」という発表や、文科省から「来年度から人材育成も含めた火山研究プロジェクトを開始する」等の情報を、報道機関等を通して皆様もお聞き及びかかと思ひます。来年度開始予定のこの火山研究プロジェクトの概要が見えてきました。そこで、有志3名（清水、西村、森田）が、想定される火山プロジェクトの概要、現在建議により進められている地震火山観測研究との関係について説明す

る会議を下記のとおり開催いたします。参加は自由です。

記

火山研究プロジェクトの説明と火山観測研究の将来についての検討会

日時：2015年11月12日（木）13：00～17：00

場所：東京大学地震研究所第1会議室（2号館5階）

発起人：清水 洋（予知協議会副議長）、西村太志（企画部戦略室）、森田裕一（企画部）

- 内容
1. 大学が現在おかれている状況と今後の見通し
 2. 火山研究プロジェクトの経緯と見通し、建議との関係
 3. 火山研究プロジェクトの想定される内容
 4. 自由討論

なお、この火山研究プロジェクトは、昨年11月に科学技術・学術審議会・測地学分科会地震火山部会で取りまとめた「御嶽山噴火を踏まえた火山観測研究の課題と対応について」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu6/toushin/1353717.htmの「(4)火山研究人材の育成」の中で、「研究人材は、研究の実施を通じて養成していくことが基本である。このため、中長期的には、プロジェクト研究等を通じて、特にポスドク人材の涵養を図るとともに、彼らが若い世代の教育にも関与して行くことで、人材育成システムの好循環を構築していく必要がある。」との記載に基づいて、文科省の委託研究により進める予定のものです。以上

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月30日送信しました）

【地球化学研究協会「公開講座」および「三宅賞」受賞者の受賞記念講演のお知らせ】

公開講座「表層型メタンハイドレートの起源と資源化の可能性」

講師・松本 良（明治大学教授）

座長・川幡穂高（東京大学大気海洋研究所教授）

三宅賞受賞者記念講演「地球外物質中の有機化合物の分子および同位体組成の研究」

受賞者：奈良岡浩 博士（九州大学大学院理学研究院教授）

進歩賞受賞者記念講演「サンゴ骨格を用いた精密環境復元のためのプロキシの開発」

受賞者：井上麻夕理 博士（岡山大学理学部地球科学科助教）

日時：2015年12月5日（土）午後2時40分より

場所：霞が関ビル35階 東海大学校友会館（地下鉄銀座線虎ノ門・千代田線霞ヶ関下車）

地球化学研究協会ホームページ：

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月9日送信しました）

【地盤工学セミナー「火山噴火と土砂災害」開催案内】

○日時：2015年12月14日（月）13：00～17：30

（受付開始：12：30～）

※土木学会の継続教育（CPD）認定プログラム

○場所：（公社）土木学会講堂（東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内）

○定員：100名

○参加費：2,500円（資料代含む）

○プログラム

13：00-13：05 開会挨拶

後藤 聡（地盤工学委員会 委員長）

13：05-14：00 基調講演

藤井敏嗣「日本の火山活動の現状と今後」（東京大学名誉教授、火山噴火予知連絡会会長、山梨県富士山科学研究所所長）

話題提供

14：10-14：40 地頭菌隆（鹿児島大学）

「火山地域の土砂災害」

15：40-15：00 千葉達朗（アジア航測 総合研究所）

「御嶽山の噴火活動と土砂災害」

15：00-15：20 後藤 聡（山梨大学）

「伊豆大島の降下火山灰と土砂災害」

（休憩）

15：30-15：50 山里 平（気象研究所）

「口永良部島の火山活動と防災」

15：50-16：10 岩田孝仁（静岡大学防災総合センター）

「富士山の広域避難～検討過程と課題～」

16：10-16：30 安養寺信夫（（一財）砂防・地すべり技術センター）

「火山噴火災害のリスク評価」

16：30-16：50 坂井佑介（九州地方整備局九州技術事務所）

「火山噴火に起因する土石流への防災対応」

（休憩）

17：00-17：25 総合討論

17：25-17：30 閉会挨拶

安養寺信夫（地盤工学委員会・火山工学研究小委員会 委員長）

総合司会 豊田浩史（地盤工学委員会 幹事長）

○申し込み方法: 土木学会 HP ホームページ (<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>) から申込できます。

○申込締切日: 平成 27 年 12 月 4 日 (金)

○問い合わせ先: 土木学会地盤工学委員会
(事務局担当: 橋本剛志)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 10 日送信しました)

【シンポジウムのご案内 (11/21 浅間山噴火シンポジウム)】

検証! 天明浅間山噴火

日時: 2015 年 11 月 21 日 (土), 13:00 開場, 13:30 開会

場所: 東京大学地震研究所 2 号館 第一会議室
(〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1)

プログラムにつきましては, 協議会 HP

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/>

及び以下の URL をご参照ください。

http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/H26-30/program_symposium_TenmeiAsama151121.pdf

お問い合わせは下記にお願いいたします。

yotikikaku@eri.u-tokyo.ac.jp

皆様のご参加をお待ちしております。

地震・火山噴火予知研究協議会 研究戦略室

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 16 日送信しました)

【火口湖シンポジウム 2015】

日時: 2015 年 12 月 15 日 (火) 9 時~17 時

場所: 東海大学・湘南キャンパス・17 号館 2 階研修室

発表内容:

- 1) カメルーン火口湖プロジェクトにおける科学的成果
- 2) 火口湖研究一般
- 3) 今後の火口湖研究計画

発表の形態: 口頭

使用言語: 英語

懇親会 (湘南キャンパス内):

18 時~20 時 (会費 3000~4000 円必要です)

シンポジウムに参加希望の方は以下の情報を, 11 月 30 日 (月) までに, 大場宛にお知らせください。
後程プログラムをお送りします。

1. 氏名 (日本語と英語で):

2. 所属 (日本語と英語で):

3. 連絡用メールアドレス:

4. 研究発表の有無: 有・無

5. 研究発表する場合の題目・著者名 (英文):

6. 懇親会参加の有無: 有・無

大場 武 東海大学・理学部・化学科

takeshi_ohba@tokai-u.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 26 日送信しました)

○アンケート

【大型研究に関する日本学術会議からのアンケート調査】

日本学術会議から, 大型研究に関するアンケート調査が来ております。

火山学会及び関連分野における, 航空・宇宙, 船舶・海洋に関する領域での, 大型施設計画・大規模研究計画についての予備調査が来ております (依頼文全体はメール後半に添付してあります)。

マスタープラン 2014 ですすでに大型研究計画として選抜されている課題についても, 今回, 重点研究課題として選抜される確度を高めるためにも, 事前調査の対象とするとのことです。

対象となる課題がある方は, 12 月 4 日 (金) までに, 火山学会事務局まで以下の項目をお知らせいただければ幸いです。

提案者 (複数可), おもな実施機関 (複数可), 提案者名, 概要 (200 字程度)

よろしくお願いいたします。

--- 依頼文 ---

関係学協会 各位

日本学術会議 総合工学委員会 フロンティア人工物分科会 委員長 川口淳一郎

日本学術会議 第 23 期 大型研究計画マスタープラン 2017 予備調査について

(依頼)

寒冷の候, 時下ますますご清祥の段, お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り, 厚く御礼申し上げます。並行して, 電子メールにて依頼申し上げます。

ご承知のように, 日本学術会議の大型研究計画検討分科会において, 我が国の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン (以下, マスタープラン) の改訂を行うことがアナウンスされております。マスタープランは, 科学者コミュニティの代表としての日本学術会議が主体的に策定するものであり, 学術全般を展望・体系化しつつ, 各学術分野が必要とする大型研究計画を網羅するとともに, 我が国の大型計画のあり方について,

一定の指針を与えることを目的とするものとされており、また、策定においては、学協会、関係研究者コミュニティとの連携が必要とされており、

フロンティア人工物とは、全地球のおよび地球外への輸送システムとしての航空宇宙・船舶海洋科学技術、地球のダイナミクスの解明を行う地球海洋観測・探査、地球外フロンティア開拓を担う宇宙開発・探査を包含しております。総合工学委員会フロンティア人工物分科会では、本分野のあり方、社会への貢献および人材育成・教育等の課題を検討し、学術会議としての提言をとりまとめてきており、このマスタープランの策定において、航空・宇宙および船舶・海洋の工学に関わる領域について、大型研究計画として、また重点研究計画としての選抜性の向上をはかるべく、支援・貢献をする予定です。理学面での本課題に関連する研究領域の設定と提案に関わる支援は、地球惑星科学委員会にて行われており、研究計画の応募先としては独立ではありますが、本分科会としては、同委員会と連携して、支援にあたらせていただく方針です。（具体的な連携活動については、現在検討中です。）なお、総合工学委員会としては、マスタープラン2014に向けた提案時と同様に、航空・宇宙および船舶・海洋に関する2つの独立な学術研究領域の設定を求めて参りたいと考えております。したがって、船舶・海洋に関わる提案が、航空・宇宙と競合することはない見通ししております。

目下のところ、公募時期、提案締切時期は公表されておりませんが、前回マスタープラン2014での例を参照しますと、2016年1月に公募がアナウンスされ、2月から3月にかけて提案の受付が行われるものと考えられます。今回、大型研究計画が全面的に見直されるか否か、また新規選抜が何件程度となるかなど、詳細は不明です。前回に則る場合、提案期間が短いうえ、提案者が、学術会議会員ないしは学協会の長という条件が課せられ、また、学術会議分野別委員会に設けられる評価分科会委員は利益相反の観点で、提案者になれないなどの制約もあるようで、アナウンスを待って提案を検討することでは、対応が難しいと考えられます。マスタープラン2014では、学術会議全体で、約200件が大型研究計画にて認められ、うち27件が重点研究計画として選抜されて、文科省研究振興局でのロードマップ2014として予算化検討プロセスに移されました。マスタープラン2014では、総合工学委員会関連では、23件が大型研究計画と認められ、うち2件の重点研究計画として選抜されましたが、それらは、航空・宇宙、船舶・海洋分野からの各1件でした。これは、マスタープラン2014に向けて提案が想定された多数の研究提案について、事前に発表会を行い、

相互の重複を取り除き、また提案のテーマの洗練化、充実化をはかった結果であると考えています。本分科会としては、本分野の一層の発展を目的に、予備調査を行い、想定される研究計画の件数や案件内容について関係者で共有したいと考えております。今回のマスタープラン2017に向けても、提案期間が短いこともあり、事前にできる限りの共有と洗練化をはかるべく、事前発表会を開催させていただきたく考えております。

これを受け、貴組織における、航空・宇宙、船舶・海洋に関する領域での、大型施設計画・大規模研究計画について予備調査をお願いしたく依頼させていただきました。マスタープラン2014ですでに大型研究計画として選抜されている課題についても、今回、重点研究課題として選抜される確度を高めるためにも、事前調査の対象とさせていただきます。また発表会にご参加いただきたく思います。貴組織内において、大型研究計画に該当する案件の概要について、至急にご調査をいただき、別紙に示す様式にご記入のうえ、平成27年12月11日までに下記担当までお寄せ頂きますよう、周知・連絡をお願い申し上げます。複数の計画提案が見込まれる場合には、適宜、表を増やしていただければと思います。平成28年1月20日に、総合工学のフロンティア分科会に関連する提案を予定している計画案の内容の共有をはかる発表会（仮称）を学術会議で計画しております。提案が想定される課題につきましては、本発表会に参加をいただきたく、代表者の方に、下記担当までご連絡いただくよう、ご協力をお願いします。なお、本作業は、本分科会を補助しているJAXAの安田と申す者が行っております。あらかじめ、ご了承をいただければと思います。

【参考】

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会「22期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」(平成24年12月21日)

【別紙】

略

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月19日送信しました)

○火山学会関係

【アジア火山学コンソーシアム 第1回フィールドキャンプ(10/28-11/5)】

日本火山学会会員 各位

国際委員会 藤田(防災科研)です。

下記日程で、アジア火山学コンソーシアム(ACV)第1回フィールドキャンプを行います。

ACVは、アジアの火山国の連携を深め、情報や知見の

交換を行うために設立されました。第1回フィールドキャンプでは、地球物理学、地球化学、地質学、岩石学等他分野での観測やデータ解釈について焦点を当て、アジアの若手が集まり議論を行う場を提供します。

アジア各国から若手火山研究者が参加され、今回約20名の参加が予定されています。また、講師陣もアジア各国機関所属の研究者です。

日本からの(若手の)参加も歓迎いたします。会場の関係で最大20名程度の参加を募集します。一部分の参加等も可能です。参加ご希望の方はまでご連絡ください。

(なお、旅費補助の募集の案内も下記にあります)。

ACV 連絡アドレス: acvolcanology@gmail.com

アジア火山学コンソーシアム 第1回フィールドキャンプ
日程: 2015年10月28日(水)~5日(木)

(10/28, 11/5は移動日のため、講義等は10/29-11/4)

会場: 山梨県環境科学研究所 (10/29)

東京大学山中寮 (10/30-31)

富士 Calm (11/1-4)

参加国: インドネシア・フィリピン・シンガポール・中国・韓国・台湾・日本

*参加費は無料です。宿泊先・食事は各自ご手配ください。

なお、海外からの参加者が主に宿泊される富士 Calmにも日程によっては空きがありますので、直接お問い合わせください。

詳細はホームページ <http://acv.html.xdomain.jp/> にてご覧ください。

[旅費補助について]

日本火山学会員の若手の皆様の旅費・宿泊費について補助いたします。

人数: 若干名

費用内訳: 交通費・宿泊費

締切: 10/5 (月)

応募先: acvolcanology@gmail.com までメールにてご連絡ください。

なお、旅費の概算、宿泊費(泊数)を合わせてご記載ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月24日送信しました)

【2015年度・名簿作成に伴う登録内容確認のお願い】
会員の皆様

2015年度・名簿作成に伴う登録内容確認のお願いを郵送にて差し上げております。

郵送した資料をご確認の上、登録内容に変更のある場合、または名簿の掲載内容に非公開を希望される項目がある場合には期限までに事務局までご連絡ください。

今回作成する名簿情報は、会員限定でパスワード保護したうえで、随時更新したものを学会ウェブサイトからアクセス可能にする予定です。掲載不可情報がありましたら登録内容確認時にその旨明記いただければ幸いです。

連絡方法は、郵送した資料に必要な事項をご記入の上メール、FAX、郵送でのご返信、または以下のホームページでの修正が可能です。

期限: 2015年12月14日

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/doc/meibo.html>

入力ページに入るために必要な会員番号は「名簿作成に伴う登録内容確認のお願い」の左上に印刷されております。メールアドレスは学会にご登録いただいたものに限りまのでご了承ください。

尚、ご郵送いたしました「登録内容確認依頼書」が1週間以内にお手元に届かない場合には事務局での手違いが考えられますので、その旨ご連絡ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月26日送信しました)

○その他のご案内

【Q&A 火山噴火 改訂版について (紹介)】

講談社ブルーバックスから日本火山学会編「Q&A 火山噴火 127の疑問に答える。噴火の仕組みを理解し災害に備える」(本体価格900円)が9月17日に出版となります。これは2001年に出版(現在絶版)された「Q&A 火山噴火 日本列島が火を噴いている!」の改訂版となり、今の時期を反映した新たな項目を加え、構成を再編し、旧版原稿に修正を加えたものです。アマゾンや楽天から予約・購入ができますし、電子版でも販売されます。出版に先立って9月11日からは以下サイトで一部公開も行われています。

<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/45233>

出版に際しては昨秋の火山学会理事会で了解をいただいた後、ジオパーク支援委員会で質問項目についてのご意見をいただき、以下の多くの会員に回答案を執筆していただきました(リストには前版回答者を含みます)。迅速に対応いただいたこれらの方々はこの場を借りてお礼を申し上げます。前版のまえがきにも触れてありますが、回答は火山学会としてのものではなく、会員個人としてのものです。質問や回答内容には有志でできる限り間違いがないか確認をしましたが、最終責任は責任編集者にあります。会員の皆様には機会があれば本書に手に

とってご覧になり、感想などを責任編集者にお寄せいただければ幸いです。(中田節也)

本書に掲載した Q&A 回答協力者(五十音順): 荒牧重雄 / 石峯康浩 / 石渡 明 / 井上公夫 / 伊藤順一 / 井村隆介 / 鶴川元雄 / 宇井忠英 / 梅田浩司 / 及川輝樹 / 大久保修平 / 大場 武 / 鍵山恒臣 / 鎌田浩毅 / 川辺禎久 / 小山真人 / 佐藤比呂志 / 佐々木 寿 / 嶋野岳人* / 高田 亮 / 高橋正樹 / 宝田晋治 / 谷口宏充 / 千葉達朗 / 津久井雅志 / 筒井智樹 / 長井雅史 / 中川光弘 / 中田節也* / 中野 俊 / 西村裕一 / 林 信太郎 / 福井敬一 / 藤田英輔 / 星住英夫 / 前野 深 / 松島 健 / 萬年一剛 / 宮地直道 / 三宅康幸 / 森 俊哉 / 安井真也 / 安田 敦 / 吉田武義 / 吉本充宏* (*改訂版 Q&A 責任編集者)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 14 日送信しました)

【次期大型研究計画への新規提案についての問合せ】

火山学会会員各位

日本学術会議では、第 23 期「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」(マスタープラン 2017) の作成を進めており、年明け早々に新規研究計画の募集開始が予定されております。

これに向けて、学術会議の地球・惑星分科会では地球惑星科学分野における大型研究の新規提案について調査を行っており、火山学会にも問い合わせがきております。

新規大型研究を計画され、火山学会を通して「推進」することを希望される会員のかたは、10 月 15 日までに学会事務局までご連絡ください。

希望される方には、別途具体的な内容についてお知らせいただくとともに、年末に予定されている地球・惑星分科会にて説明をしていただくことになると思われます。

よろしく願いいたします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 9 日送信しました)

【日本地球惑星科学連合・代議員選挙について】

日本地球惑星科学連合では、9 月 29 日より代議員選挙の投票を行っています。投票締め切りは 10 月 28 日(明後日) 23:59 ですが、現在の投票率は約 12% 程度にとどまっています。まだ、大多数の方が未投票の状態です。日本地球惑星科学連合が会員の意向を踏まえて民主的に運営されるためにも、火山学会の会員の皆様に投票をお願いしたいと思います。

[投票方法] JpGU の個人会員ログインページよりログイン後、代議員選挙投票欄「選挙投票」をクリックして行ってください。

<https://secure.jproduce.co.jp/jpgu/>

[代議員候補者名簿 (抱負記載)]

(日) http://www.jpgu.org/2015election/candidate_2015.pdf

(英) http://www.jpgu.org/e/whatsnew/daigiinlist_e.pdf

[現在の投票状況]

<https://secure.jproduce.co.jp/jpgu/election/ListElection.asp>

[今後の日程, 投票方法等]

9 月 29 日(火) 投票開始

10 月 28 日(水) 投票締切

11 月 2 日(月) 開票, 結果報告

日本地球惑星科学連合選挙管理委員会

委員長 浜田盛久

委員 飯塚 毅, 癸生川陽子, 長谷川拓也,

行松 彰, 吉田英嗣

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 23 日送信しました)

○ EPS 関係

【Earth Planets and Space 2014 年御嶽山噴火特集のメ切延長のお知らせ】

特集号 編集委員長 山岡耕春

The Phreatic Eruption of Mt. Intake in 2014 への論文投稿を今月末をメ切で募集していますが、メ切時期が火山学会秋期大会と重なるなどの事情を勘案し、メ切を 2ヶ月延長いたします。新たなメ切は 2015 年 11 月 30 日です。時間の都合で投稿をあきらめていた方も、この機会には是非ご投稿下さい。

また、ご投稿いただいた論文につきましては、受付後すぐに査読プロセスにはいり、受理決定次第オンラインで公開されますので、すでにご準備いただいている方は早めにご投稿下さい。積極的なご投稿をお待ちしています。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 18 日送信しました)

【Contents Service: Earth, Planets and Space, Vol. 67 June & July 2015】

=====

Earth, Planets and Space (EPS)

Contents : Vol. 67

Published : June & July 2015

Manuscript No. 84-122

<http://www.earth-planets-space.com/content>

=====

Frontier letter

Pulsed-field magnetometry for rock magnetism

- Kazuto Kodama
Earth, Planets and Space 2015, 67:122 (31 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/122>
Full paper
Thin-sheet electromagnetic modeling of magnetovariational data for aregional-scale study
Hendra Grandis, Michel Menvielle
Earth, Planets and Space 2015, 67:121 (30 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/121>
Full paper
Simultaneous ground-based optical and SuperDARN observations of the shockaurora at MLT noon
Jianjun Liu, Hongqiao Hu, Desheng Han, Huigen Yang, Mark Lester
Earth, Planets and Space 2015, 67:120 (29 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/120>
Full paper
Precursory tilt changes of small phreatic eruptions of Meakan-dake volcano, Hokkaido, Japan, in November 2008
Hiroshi Aoyama, Hiromitsu Oshima
Earth, Planets and Space 2015, 67:119 (29 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/119>
Full paper
Highly Accessed
Rock magnetic characterization of ferrimagnetic iron sulfides in gashydrate-bearing marine sediments at Site C0008, Nankai Trough, Pacific Ocean, off-coast Japan
Myriam Kars, Kazuto Kodama
Earth, Planets and Space 2015, 67:118 (29 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/118>
Technical report
Interplanetary particle transport simulation for warning system for aviationexposure to solar energetic particles
Yūki Kubo, Ryuho Kataoka, Tatsuhiko Sato
Earth, Planets and Space 2015, 67:117 (29 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/117>
Preface
The Earth, Planets and Space Special Issue: “Science of solar system materials examined from Hayabusa and future missions”
Tatsuaki Okada, Michael Zolensky, Trevor Ireland, Toru Yada
Earth, Planets and Space 2015, 67:116 (26 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/116>
Full paper
Abnormal quiet day variations in Indian region along 75° E meridian
S K Bhardwaj, P B V Subba Rao, B Veenadhari
Earth, Planets and Space 2015, 67:115 (25 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/115>
Full paper
DTU candidate field models for IGRF-12 and the CHAOS-5 geomagnetic field model
Christopher C Finlay, Nils Olsen, Lars Tøffner-Clausen
Earth, Planets and Space 2015, 67:114 (22 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/114>
Letter
A probabilistic analysis of the implications of instrument failures on ESA’s Swarm mission for its individual satellite orbit deployments
Andrew Jackson
Earth, Planets and Space 2015, 67:113 (22 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/113>
Technical report
Evaluation of candidate geomagnetic field models for IGRF-12
Erwan Thébaud, Christopher Finlay, Patrick Alken, Ciaran Beggan, ElisabethCanet, Arnaud Chulliat, Benoit Langlais, Vincent Lesur, Frank Lowes, Chandrasekharan Manoj, Martin Rother, Reyko Schachtschneider
Earth, Planets and Space 2015, 67:112 (19 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/112>
Frontier letter
Highly Accessed
Preparatory and precursory processes leading up to the 2014 phreatic eruption of Mount Ontake, Japan
Aitaro Kato, Toshiko Terakawa, Yoshiko Yamanaka, Yuta Maeda, Shinichiro Horikawa, Kenjiro Matsuhiro, Takashi Okuda
Earth, Planets and Space 2015, 67:111 (16 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/111>
Letter
Reconnection and interchange instability in the near magnetotail
Joachim Birn, Yi-Hsin Liu, William Daughton, Michael Hesse, Karl Schindler
Earth, Planets and Space 2015, 67:110 (16 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/110>
Full paper
Relativistic electron acceleration during HILDCAA events: are precursor CIR magnetic storms important?
Rajkumar Hajra, Bruce T Tsurutani, Ezequiel Echer, Walter

- D Gonzalez, Christiano Brum, Luis Vieira, Ondrej Santolik
 Earth, Planets and Space 2015, 67:109 (7 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/109>
 Full paper
 Compilation of 3D global conductivity model of the Earth for space weather applications
 Dmitry Alekseev, Alexey Kuvshinov, Nikolay Palshin
 Earth, Planets and Space 2015, 67:108 (4 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/108>
 Full paper
 Imaging-based observations of low-latitude auroras during 2001–2004 at Nayoro, Japan
 Hidehiko Suzuki, Haruka Chino, Yasuo Sano, Akira Kadokura, Mitsumu K Ejiri, Makoto Taguchi
 Earth, Planets and Space 2015, 67:107 (4 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/107>
 Full paper
 PCA analysis of the nighttime anomaly in far-from-geomagnetic pole regions from VTEC GNSS data
 A. Meza, M. Natali, L. Fernández
 Earth, Planets and Space 2015, 67:106 (4 July 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/106>
 Full paper
 Analytical algorithm of weighted 3D datum transformation using the constraint of orthonormal matrix
 Huaïen Zeng
 Earth, Planets and Space 2015, 67:105 (30 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/105>
 Full paper
 Study of thermal structure differences from coordinated lidar observations over Mt. Abu (24.5° N, 72.7° E) and Gadanki (13.5° N, 79.2° E)
 Som Sharma, H Chandra, S Lal, Y B Acharya, A Jayaraman, H Gadhavi, S Sridharan, S Chandra
 Earth, Planets and Space 2015, 67:104 (30 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/104>
 Letter
 Reconnection flow jets in 3D as a source of structured dipolarization fronts
 Philip Pritchett
 Earth, Planets and Space 2015, 67:103 (27 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/103>
 Full paper
 POGO satellite orbit corrections: an opportunity to improve the quality of the geomagnetic field measurements?
 Reto Stockmann, Freddy Christiansen, Nils Olsen, Andrew Jackson
 Earth, Planets and Space 2015, 67:102 (27 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/102>
 Letter
 Relationship between coseismic slip and static stress drop of similar aftershocks of the 2007 Noto Hanto earthquake
 Suguru Urano, Yoshihiro Hiramatsu, Takuji Yamada, The Group for the Joint Aftershocks Observations of the 2007 Noto Hanto Earthquake
 Earth, Planets and Space 2015, 67:101 (27 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/101>
 Letter
 Unusual low-angle normal fault earthquakes after the 2011 Tohoku-oki megathrust earthquake
 Yuji Yagi, Ryo Okuwaki, Bogdan Enescu, Yukitoshi Fukahata
 Earth, Planets and Space 2015, 67:100 (26 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/100>
 Full paper
 Focal mechanisms and stress field in the Nobi fault area, central Japan
 Kei Katsumata, Masahiro Kosuga, Hiroshi Katao, Takuji Yamada, Aitaro Kato, the Research Group for the Joint Seismic Observations at the Nobi Area
 Earth, Planets and Space 2015, 67:99 (25 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/99>
 Letter
 Robust detection of ionospheric scintillations using MF-DFA technique
 Sridhar Miriyala, Padma Koppireddi, Srinivasa Chanamallu
 Earth, Planets and Space 2015, 67:98 (24 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/98>
 Full paper
 Precursory seismicity changes prior to major earthquakes along the Sumatra-Andaman subduction zone: a region-time-length algorithm approach
 Santawat Sukrungsri, Santi Pailoplee
 Earth, Planets and Space 2015, 67:97 (23 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/97>
 Letter
 Main field and secular variation candidate models for the 12th IGRF generation after 10 months of Swarm measurements
 Diana Saturnino, Benoit Langlais, François Civet, Erwan Thébaud, Mioara Manda
 Earth, Planets and Space 2015, 67:96 (20 June 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/96>

Full paper

A 2015 International Geomagnetic Reference Field (IGRF) candidate model based on Swarm's experimental absolute magnetometer vector mode data

Pierre Vigneron, Gauthier Hulot, Nils Olsen, Jean-Michel Léger, Thomas Jager, Laura Brocco, Olivier Sirol, Pierdavide Coisson, Xavier Lalanne, Arnaud Chulliat, François Bertrand, Axel Boness, Isabelle Fratter

Earth, Planets and Space 2015, 67:95 (20 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/95>

Letter

Global MHD simulation of magnetospheric response of preliminary impulse to large and sudden enhancement of the solar wind dynamic pressure

Yasubumi Kubota, Ryuhō Kataoka, Mitsue Den, Takashi Tanaka, Tsutomu Nagatsuma, Shigeru Fujita

Earth, Planets and Space 2015, 67:94 (19 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/94>

Frontier letter

Regional-scale high-latitude extreme geoelectric fields pertaining to geomagnetically induced currents

Antti Pulkkinen, Emanuel Bernabeu, Jan Eichner, Ari Viljanen, Chigomezyo Ngwira

Earth, Planets and Space 2015, 67:93 (19 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/93>

Full paper

Timing of clockwise rotation of Southwest Japan: constraints from new middle Miocene paleomagnetic results

Hiroyuki Hoshi, Daiki Kato, Yoshikazu Ando, Kazuo Nakashima

Earth, Planets and Space 2015, 67:92 (19 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/92>

Frontier letter

Evolution of the Earth as an andesite planet: water, plate tectonics, and delamination of anti-continent

Yoshiyuki Tatsumi, Takeshi Sato, Shuichi Kodaira

Earth, Planets and Space 2015, 67:91 (17 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/91>

Full paper

Mineralogy and noble gas isotopes of micrometeorites collected from Antarctica snow

Ryuji Okazaki, Takaaki Noguchi, Shin-ichi Tsujimoto, Yu Tobimatsu, Tomoki Nakamura, Mitsuru Ebihara, Shoichi Itoh, Hiroko Nagahara, Shogo Tachibana, Kentaro Terada, Hikaru Yabuta

Earth, Planets and Space 2015, 67:90 (17 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/90>

Frontier letter

Morphology and dynamics of daytime mid-latitude sporadic-E patches revealed by GPS total electron content observations in Japan

Jun Maeda, Kosuke Heki

Earth, Planets and Space 2015, 67:89 (11 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/89>

Full paper

Observation of ionospheric disturbances induced by the 2011 Tohoku tsunami using far-field GPS data in Hawaii

Long Tang, Xiaohong Zhang, Zhe Li

Earth, Planets and Space 2015, 67:88 (11 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/88>

Full paper

Parent magnetic field models for the IGRF-12GFZ-candidates

Vincent Lesur, Martin Rother, Ingo Wardinski, Reyko Schachtschneider, Mohamed Hamoudi, Aude Chambodut

Earth, Planets and Space 2015, 67:87 (10 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/87>

Full paper

Simulating influences of QBO phases and orographic gravity wave forcing on planetary waves in the middle atmosphere

Nikolai Gavrilov, Andrej Koval, Alexander Pogoreltsev, Elena Savenkova

Earth, Planets and Space 2015, 67:86 (10 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/86>

Full paper

Penetration of a radio frequency electromagnetic field into a magnetized plasma: one-dimensional PIC simulation studies

Fumiko Otsuka, Tohru Hada, Shunjiro Shinohara, Takao Tanikawa

Earth, Planets and Space 2015, 67:85 (6 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/85>

Full paper

Electron beam-associated symmetric electrostatic solitary waves on the separatrix of magnetic reconnection: multi-spacecraft analysis

Shiyu Li, Shifeng Zhang, Hong Cai, Huabo Yang

Earth, Planets and Space 2015, 67:84 (5 June 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/84>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月4日送信しました)

【Contents Service: Earth, Planets and Space, Vol. 67 August & September 2015】

=====

Earth, Planets and Space (EPS)
 Contents : Vol. 67
 Published : August & September 2015
 Manuscript No. 123-160
<http://www.earth-planets-space.com/content>

=====

Full paper
 Introducing inter-site phase tensors to suppress galvanic distortion in the telluric method Jenneke Bakker, Alexey Kuvshinov, Friedemann Samrock, Alexey Geraskin, Oleg Pankratov Earth, Planets and Space 2015, 67: 160 (30 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/160>

Full paper
 Focal mechanism determinations of earthquakes along the North Anatolian fault, beneath the Sea of Marmara and the Aegean Sea Masaru Nakano, Seckin Citak, Doğan Kalafat Earth, Planets and Space 2015, 67:159 (28 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/159>

Preface
 Special issue “International Geomagnetic Reference Field—the twelfth generation”
 E. Thébault, CC Finlay, H. Toh
 Earth, Planets and Space 2015, 67:158 (23 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/158>

Frontier letter
 Advective diffusion of volcanic plume captured by dense GNSS network around Sakurajima volcano: a case study of the vulcanian eruption on July 24, 2012 Yusaku Ohta, Masato Iguchi Earth, Planets and Space 2015, 67:157 (22 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/157>

Full paper
 Three-dimensional electron density along the WSA and MSNA latitudes probed by FORMOSAT-3/COSMIC F. Chang, J. Liu, L. Chang, C. Lin, C. Chen Earth, Planets and Space 2015, 67:156 (21 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/156>

Full paper
 Inverting magnetic meridian data using nonlinear optimization Martin Connors, Gordon Rostoker Earth, Planets and Space 2015, 67:155 (17 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/155>

Reviewer acknowledgement

Editorial: Acknowledgement to reviewers

Yasuo Ogawa

Earth, Planets and Space 2015, 67:154 (17 September 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/154>

Letter

Statistical analysis of extreme auroral electrojet indices

Masao Nakamura, Asato Yoneda, Mitsunobu Oda, Ken Tsubouchi Earth, Planets and Space 2015, 67: 153 (16 September 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/153>

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/153>

Full paper

Genesis of the columnar joints from welded tuff in Mount

Mudeung National Geopark, Republic of Korea Chungwan

Lim, Min Huh, Keewook Yi, Changyeol Lee Earth, Planets and Space 2015, 67:152 (15 September 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/152>

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/152>

Letter

Dependence of the high-latitude plasma irregularities on the

auroral activity indices: a case study of 17 March 2015

geomagnetic storm Iurii Cherniak, Irina Zakharenkova

Earth, Planets and Space 2015, 67:151 (15 September 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/151>

Frontier letter

Rock-magnetic properties of single zircon crystals sampled

from the Tanzawa tonalitic pluton, central Japan Masahiko

Sato, Shinji Yamamoto, Yuhji Yamamoto, Yoshihiro

Okada, Masao Ohno, Hideo Tsunakawa, Shigenori

Maruyama Earth, Planets and Space 2015, 67: 150 (15

September 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/150>

Letter

Estimation of index of power law rigidity spectrum of

cosmic rays using effective rigidity of multidirectional

muon detector G. Kalugin, K. Kabin Earth, Planets and

Space 2015, 67:149 (15 September 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/149>

Letter

The problem of the acceleration of electrons of the outer

radiation belt and magnetospheric substorms E. Antonova,

M. Stepanova Earth, Planets and Space 2015, 67:148 (15

September 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/148>

Full paper

Offshore seismicity in the western Marmara Sea, Turkey,

revealed by ocean bottom observation Yojiro Yamamoto,

- Narumi Takahashi, Seekin Citak, Doğan Kalafat, Ali Pinar, Cemil Gurbuz, Yoshiyuki Kaneda Earth, Planets and Space 2015, 67:147 (15 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/147>
 Full paper
- Dependence of mesospheric Na and Fe distributions on electron density at Arecibo Shikha Raizada, Craig Tepley, Qihou Zhou, Sumanta Sarkhel, John Mathews, Nestor Aponte, Ilgin Seker, Robert Kerr, Edvier Cabassa Earth, Planets and Space 2015, 67:146 (11 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/146>
 Erratum
- Erratum to: A case study on occurrence of an unusual structure in the sodium layer over Gadanki, India Sumanta Sarkhel, John D Mathews, Shikha Raizada, Ramanathan Sekar, Dibyendu Chakrabarty, Amitava Guharay, Geonhwa Jee, Jeong-Han Kim, Robert B Kerr, Geetha Ramkumar, Sundararajan Sridharan, Qian Wu, Martin G Mlynczak, James M Russell Earth, Planets and Space 2015, 67:145 (7 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/145>
 Full paper
- Tropospheric delay determination by Kalman filtering VLBI data Benedikt Soja, Tobias Nilsson, Maria Karbon, Florian Zus, Galina Dick, Zhiguo Deng, Jens Wickert, Robert Heinkelmann, Harald Schuh Earth, Planets and Space 2015, 67:144 (4 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/144>
 Letter
- Observations of field-aligned ionospheric irregularities during quiet and disturbed conditions with EKB radar: first results Oleg Berngardt, Nina Zolotukhina, Alexey Oinats Earth, Planets and Space 2015, 67:143 (3 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/143>
 Full paper
- Complex faulting in the Quetta Syntaxis: fault source modeling of the October 28, 2008 earthquake sequence in Baluchistan, Pakistan, based on ALOS/PALSAR InSAR data Muhammad Usman, Masato Furuya Earth, Planets and Space 2015, 67:142 (3 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/142>
 Frontier letter
- An estimate of tidal and non-tidal modulations of plate subduction speed in the transition zone in the Tokai district Yoshiyuki Tanaka, Suguru Yabe, Satoshi Ide Earth, Planets and Space 2015, 67:141 (2 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/141>
 Full paper
- TEC prediction performance of the IRI-2012 model over Ethiopia during the rising phase of solar cycle 24 (2009–2011) Yekoye Tariku Earth, Planets and Space 2015, 67:140 (2 September 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/140>
 Full paper
- Further evidence for the role of magnetotail current shape in substorm initiation M. Kubyschkina, N. Tsyganenko, V. Semenov, D. Kubyschkina, N. Partamies, E. Gordeev Earth, Planets and Space 2015, 67:139 (28 August 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/139>
 Full paper
- Application of ground scatter returns for calibration of HF interferometry data Pavlo Ponomarenko, Nozomu Nishitani, Alexey Oinats, Taishi Tsuya, Jean-Pierre St.-Maurice Earth, Planets and Space 2015, 67:138 (26 August 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/138>
 Full paper
- Statistical investigation on the power-law behavior of magnetic fluctuations in the Venusian magnetosheath Navin Dwivedi, Daniel Schmid, Yasuhito Narita, Peter Kovács, Zoltan Vörös, Magda Delva, Tielong Zhang Earth, Planets and Space 2015, 67:137 (25 August 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/137>
 Full paper
- Application of Kalman filtering in VLBI data analysis Tobias Nilsson, Benedikt Soja, Maria Karbon, Robert Heinkelmann, Harald Schuh Earth, Planets and Space 2015, 67:136 (25 August 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/136>
 Full paper
- Monitoring the instrument response of the high-sensitivity seismograph network in Japan (Hi-net) : effects of response changes on seismic interferometry analysis Tomotake Ueno, Tatsuhiko Saito, Katsuhiko Shiomi, Yoshikatsu Haryu Earth, Planets and Space 2015, 67:135 (25 August 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/135>
 Full paper
- Recovery of orthometric heights from ellipsoidal heights using offsets method over Japan Patroba Odera, Yoichi Fukuda Earth, Planets and Space 2015, 67:134 (21 August 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/134>

Letter

On the plasma sheet dependence on solar wind and substorms and its role in magnetosphere-ionosphere coupling V A Sergeev, N P Dmitrieva, N A Stepanov, D A Sormakov, V Angelopoulos, A V Runov Earth, Planets and Space 2015, 67:133 (19 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/133>

Full paper

Analysis and simulation of standing wave pattern of powerful HF radio waves in ionospheric reflection region Chen Wang, Chen Zhou, Zheng-Yu Zhao, Xu-Bo Yang Earth, Planets and Space 2015, 67:132 (19 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/132>

Full paper

Method for modeling of the components of ionospheric parameter time variations and detection of anomalies in the ionosphere Oksana Mandrikova, Nadejda Fetisova, Yuri Polozov, Igor Solovlev, Mikhail Kupriyanov Earth, Planets and Space 2015, 67:131 (18 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/131>

Full paper

2.5D regularized inversion for the interpretation of residual gravity data by a dipping thin sheet: numerical examples and case studies with an insight on sensitivity and non-uniqueness Salah Mehanee, Khalid Essa Earth, Planets and Space 2015, 67:130 (18 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/130>

Full paper Highly Accessed

Earthquake interevent time distribution in Kachchh, Northwestern India Sumanta Pasari, Onkar Dikshit Earth, Planets and Space 2015, 67:129 (15 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/129>

Full paper

Orbital-scale variation in the magnetic content as a result of sea level changes in Papua New Guinea over the past 400 ka Yin-Sheng Huang, Teh-Quei Lee, Shu-Kun Hsu Earth, Planets and Space 2015, 67:128 (14 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/128>

Technical report

Small sensor probe for measuring plasma waves in space Takahiro Zushi, Hirotsugu Kojima, Keisuke Onishi, Mitsunori Ozaki, Satoshi Yagitani, Satoru Shimizu, Hiroshi Yamakawa Earth, Planets and Space 2015, 67: 127 (14 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/127>

Letter

Occurrence characteristics and lowest speed limit of subauroral polarization stream (SAPS) observed by the SuperDARN Hokkaido East radar Hiroki Nagano, Nozomu Nishitani, Tomoaki Hori Earth, Planets and Space 2015, 67: 126 (13 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/126>

Full paper

Near-field strain observations of the October 2013 Ruisui, Taiwan,

earthquake: source parameters and limits of very short-term strain detection Alexandre Canitano, Ya-Ju Hsu, Hsin-Ming Lee, Alan Linde, Selwyn Sacks Earth, Planets and Space 2015, 67:125 (7 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/125>

Full paper

High-resolution gravity and geoid models in Tahiti obtained from new airborne and land gravity observations: data fusion by spectral combination Hsuan-Chang Shih, Cheinway Hwang, Jean-Pierre Barriot, Maxime Mouyen, Pascal Corr ea, Didier Lequeux, Lydie Sichoix Earth, Planets and Space 2015, 67:124 (5 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/124>

Preface

Preface for the special issue of “New Perspective of Subduction Zone Earthquakes”

Gaku Kimura, Juichiro Ashi, Masataka Kinoshita, Christie Rowe, David Shelly Earth, Planets and Space 2015, 67:123 (1 August 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/123>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月 24 日送信しました)

○秋季大会関係

【ジオツアー募集延長のお知らせ】

9 月 27 日に実施されるジオツアーの参加締切が過ぎましたが、まだ定員に達していませんので、締切を 9 月 11 日(金)まで延長します。ぜひ参加をご検討ください。

ジオツアー・黒部川の峡谷(黒難温泉)と扇状地(みずはくツアー 2015) 黒部峡谷トロッコ電車と貸切バスを用いて巡検を行います。

見学地は、黒部峡谷、黒難温泉(入浴予定、黒難駅から徒歩約 20 分)、宇奈月変成岩、黒部扇状地、生地湧水群他を予定しています。

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/#geotour>

日時: 9 月 27 日(日) 10: 20

北陸新幹線 黒部宇奈月温泉駅 集合

17:20 北陸新幹線 黒部宇奈月温泉駅 解散

案内者：山本隆治・君島 勝（フィールドミュージアム 水博物館）

参加費：10,000 円（交通費・昼食代，入浴料，旅行保険を含む）

募集人数：20 名

申込締切：9 月 11 日（金）

申込・問い合わせ先：一般社団法人立山黒部ジオパーク協会 info@tatekuro.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 4 日送信しました）

【「火山学会創立 60 周年記念祝賀会」事前申込のお願い（締切：9 月 20 日（日）17 時）】

火山学会創立 60 周年記念祝賀会に参加される方は下記申込フォームより E-mail で★事前申込み★をお願いします。

当日申込み可能人数は僅少でございます。

祝賀会参加の方は 9 月 20 日（日）17 時まで事前に申し込みを済ませられますよう、お願い致します。

ご都合によりキャンセルされる場合は、至急御連絡ください。

祝賀会の円滑な開催に、ご協力をよろしくお願い致します。

日時：9 月 29 日（火曜日）18 時 30 分～20 時 30 分

会場：富山電気ビルディング 5 階大ホール

事前予約締め切り：★9 月 20 日（日）17 時

参加費：一般 5,500 円（★当日は 6,000 円）、

学生 3,500 円（★当日は 4,000 円）

会場までの移動手段：市内電車（大学前-電気ビル前）約 22 分 200 円 約 7 分間隔で発車

なお、新富町で下車して、会場までの約 500m を歩いた方が到着は早い。

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/index.html#party>

※火山学会創立 60 周年記念祝賀会・事前申込フォーム

申込先：kazan015@sci.u-toyama.ac.jp

メールの件名（タイトル名）に必ず【祝賀会申込】としてお申し込みください。

申込みフォーム：

メールの件名（タイトル名）【祝賀会申込】

本文テキスト

- (1) 氏名：
- (2) 所属：
- (3) 連絡先メールアドレス・電話番号：
- (4) 一般/学生の別：

=====
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 7 日送信しました）

【アルバイト募集】

富山大で開催される日本火山学会（創立 60 周年記念大会）の期間中、学会運営を手伝っていただけるアルバイトを募集します。

対象：学生会員

人数：10 名程

条件：時給 1000 円，交通費支給なし アルバイト時間が半日以上になる場合は、昼食代を支給

時間：9 月 27 日午後～9 月 30 日午後の間で、半日単位ごと。

内容：添付したタイムテーブルの背景がオレンジの部分でアルバイトを募集します。

会場準備・撤収，学会・懇親会受付，講演会におけるタイムキーパー，照明，マイク係等。

申し込み締め切り：9 月 20 日

応募人数を超えた場合は、原則先着順

申込先：kazan015@sci.u-toyama.ac.jp

メール件名「火山学会アルバイト応募」

1. 名前（ふりがな）
2. 所属
3. 学年
4. 連絡先電話番号
5. 連絡先メールアドレス
6. 以下のうち、可能な時間枠（具体的な時間は個別に相談）
 - ① 9 月 27 日午後 16:00-18:00（会場設営：共通教育棟）
 - ② 9 月 28 日午前 9:00-13:00（受付，会場準備および支援：共通教育棟）
 - ③ 9 月 28 日午後 13:00-17:30（受付，会場支援など：共通教育棟）
 - ④ 9 月 29 日午前 8:30-11:30（受付，会場支援など：共通教育棟）
 - ⑤ 9 月 29 日午前 9:30-17:30（会場設営・支援など：黒田講堂＝60 周年記念式典）黒田講堂の照明装置や音響機器を担当していただくため、午前・午後とも同じメンバーが望ましい
 - ⑥ 9 月 29 日午後 17:00-21:00（祝賀会受付：富山電気ビル＝60 周年記念祝賀会）
 - ⑦ 9 月 30 日午前 8:30-12:30（受付，会場支援など：共通教育棟）

⑧ 9月30日午後12:30-16:00(受付,会場
支援及び撤収:共通教育棟)

7. 特であれば希望の仕事など

本件についての相談・質問は, 秋季大会実行委員会 (kazan015@sci.u-toyama.ac.jp) もしくは委員会代表 (石崎: ishizaki@sci.u-toyama.ac.jp) まで.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月8日送信しました)

【2015年秋季大会のお知らせ】

日本火山学会 会員の皆さま

日本火山学会2015年度秋季大会は, 富山大学五福キャンパスの黒田講堂, 共通教育棟及び理学部棟で開催されます.

1. プログラムと発表日時確認のお願い

こちらのページで大会プログラムを公開していますのでご確認ください.

A 会場:

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/programA.html>

B 会場:

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/programB.html>

ポスター:

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/programP.html>

PDF版プログラム:

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/images/2015program.pdf>

2. 大会期間中の会合

9月27日(日)

・理事会: 富山大学共通教育棟 A31 号室

16時~17時

・火山防災委員会: 富山大学共通教育棟 A33 号室

17時~19時

9月28日(月)

・ジオパーク支援委員会: 共通教育棟 A33 号室

12時30分~13時

・アジアコンソーシアム WG ミーティング: 共通教育棟 A31 号室 12時30分~13時

・原子力問題対応委員会: 共通教育棟 A33 号室
夕方

9月29日(火)

・臨時総会: 富山大学黒田講堂 12時30分~

※9月18日付で維持会員, 名誉会員の方にメールにて開催のご案内をお送りしております.

欠席の方は委任状をメールでご提出ください.

9月30日(水)

・学生優秀発表賞表彰式: A 会場 14時40分~15時

3. 秋季大会・受付

9月27日(日)14時頃より, 共通教育棟1階にて受付を開始いたします.

参加費, 祝賀会費のお支払をお願いいたします.

※9月26日(土)~10月1日(木)午前中まで文京区本郷の火山学会事務局は不在になります.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月24日送信しました)

【2017年度日本火山学会秋季大会開催地候補公募】

火山学会会員各位

日本火山学会では, 2017年度秋季大会の開催地の公募を行います.

募集要項・応募様式は日本火山学会ホームページ

<http://www.kazan.or.jp/J/index.html>

からダウンロードすることができます.

必須事項を専用の用紙に記入の上, 2015年12月25日16時(必着)までに学会事務局(kazan-gakkai@kazan.or.jp)宛に電子メール添付にてお申し込み下さい.

応募方法やこれまでの開催事例など, 詳細についてのご質問にも対応致しますので, 日本火山学会事務局までお気軽にお問い合わせ下さい.

また, 2018年度以降の秋季大会についてのご相談も随時受け付けております.

将来立候補をご検討中の方は, 大会委員会(kazan-taikai@kazan.or.jp)までぜひお知らせ下さい.

それぞれの特色ある地域, 自然, 食の魅力などを内外に発信する絶好のチャンスかと思えます.

ぜひ皆様ふるってご応募下さいますようお願い申し上げます.

なお, 2016年秋季大会の学術講演会は, 2016年10月13~15日に富士吉田市で開催予定です.

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月9日送信しました)

○「火山」60巻3号 目次

「火山」60巻3号・目次をアナウンスいたします.

目次・掲載内容のほか, メーリングリスト限定, 著者からの一言メッセージをご覧ください.

=====

【特集: 火山噴火史解明のための露頭データベース構築の検討(3)】

1. 論説「徳島平野と濃尾平野で得られた完新世浅海底堆積物のテフラと放射性炭素年代による編年」

著者: 中西利典・竹村恵二

徳島平野と濃尾平野で得られた合計6本のボーリン

グコア試料において極細粒砂中の火山ガラスの含有率および形態などの変化を連続的に評価することによって、鬼界アカホヤ火山灰と天城カワゴ平火山灰の合計8箇所の降下層準を純層ではない部分で認定した。それらの既知の降下年代と上下の層準で得られた放射性炭素年代値を比較して、浅海堆積物で同年代測定法を適用する上での注意点を記述した。こうしたコア堆積物は長期間保存されることは極稀なので、詳しい情報を効率的に管理するデータベースの構築方法の確立が望まれる。

2. 寄書「開聞岳火山の海食崖に露出するテフラ層から得られた炭化木片の放射性炭素年代」

著者：片平 要・奥野 充

この論文では、南九州の開聞岳火山の海食崖に露出するテフラ、溶岩およびラハール堆積物の層序について、炭化木片の放射性炭素年代から再検討しています。海食崖を構成する地質ユニットは、これまで平安時代（9世紀後半）におこった最新の噴火によって形成されたと考えられていました。しかし、今回の結果からそれよりも古い3世紀ごろにこれらの大半が形成されたことが明らかになり、今後、この火山の山体形成史を詳しく検討する際の重要な制約条件が提供できたと考えています。

3. 寄書「九重火山群、松の台岩屑なだれ堆積物の地質学的研究」

著者：小林哲夫・筒井正明・奥野 充

九重火山北麓の飯田高原に分布する松の台岩屑なだれ堆積物の給源については、湯沢溶岩と泉水山の2つの可能性が指摘されていたが、崩壊堆積物の分布、周辺火山の地形、地質、岩石の特徴から、現在の三俣山の位置が発生源であることを明らかにした。その崩壊堆積物の流れの先端が対岸の緩斜面に乗り上げた薄く細粒な周辺相が存在することも見出した。また高温で定置した堆積物と推定されていたが、常温の崩壊堆積物であることを議論した。

4. 寄書「垂木台地における雲仙普賢岳1990-1995年噴火堆積物の重要露頭」

著者：大野希一

長崎県島原市南部に位置する長崎県立垂木台地森林公園内には、1990年から約5年間継続した雲仙普賢岳噴火に伴う2つの露頭がある。これらの露頭に産する火砕堆積物の形成日時を、噴火当時の観察記録や既往研究を基に推定した。また、これらの露頭の活用事例と、保全の在り方についても触れた。

5. 寄書「箱根火山噴出物を中心とした更新世中・後期テフラ露頭画像データベースの構築と公開

～神奈川県立生命の星・地球博物館の事例～」

著者：笠間友博・石浜佐栄子・山下浩之・

新井田秀一・平田大二

神奈川県の大磯丘陵や多摩丘陵では盛んにテフラの研究が行われ、多くの論文が出版されましたが、現在では露頭はほとんどなくなってしまい、当時のテフラ画像もあまり残されていません。このような課題に対応すべく神奈川県立生命の星・地球博物館では、テフラ画像の収集を行い、データベースを構築しました。しかし、完全なものではなく欠落した層準もあります。テフラデータベースは画像型とデータ型に分けられますが、画像型データベースは何か対策を考えないと、今後も構築は難しいことが予想されます。将来に向けて効果的な画像収集の方策について、皆様に考えていただくきっかけになれば幸いです。

6. 寄書「地層剥ぎ取り技法を用いた箱根火山起源噴出物の実物標本化

—神奈川県立生命の星・地球博物館における露頭情報の収集・保存・活用—

著者：石浜佐栄子・笠間友博・山下浩之・平田大二・新井田秀一

神奈川県立生命の星・地球博物館では、地質学的に重要な露頭の「地層剥ぎ取り標本」を継続的に収集しています。地層剥ぎ取り技法を用いた露頭情報の収集や保存、活用の事例について、また露頭の再検証資料としての可能性について報告しました。地層剥ぎ取り標本をはじめとした、露頭情報や実物標本の保存の意義が広く認識され、研究者間で情報の共有化が進むことを期待します。

7. 寄書「火山露頭データベース：新たな“知識基盤”の構築とその試作例」

著者：奥村 勝・高橋伸弥・鶴田直之・鳥井真之・奥野 充

火山に関するデータベースについて情報工学の観点からレビューし、火山露頭データベースの構築に向けたアプローチとして、新たなデータベース技術を用いたフレームワークやタグによるデータ管理手法を提案します。これらにより既往研究の課題の解消を図るとともにデータベース構築への適用例として、研究者向け資料管理データベースと一般市民など幅広い層を対象とした一般公開型露頭情報データベースの事例を示し、提案が新たな知識基盤として活用できる火山露頭データベース構築に応用できることを示します。

8. 論説「K-GPS を用いた火山地形の計測—伊豆大室山での試行—」

著者：野口里奈・吉田朱里・猿谷友孝・西川泰弘・栗田 敬

DEM（デジタル高度モデル）が整備されていない地域において数十センチスケールで火山地形を簡便に（かつ費用を抑えて）知るにはどうしたら良いか…「GPS を頭上に乗っけて歩けば良いのではないか？」—この単純な手法がどのくらい信用たるものか、実用的であるか、我々は東伊豆の大室山をテスト対象とし、直登による測量で得たデータを既存のDEMと比較することで検証した。比較の結果、整合性のあるデータが得られ、本手法はDEM未整備地域での簡易測量に有効であることが示された。

9. 論説「地球物理学的定点反復観測からみた1970年噴火後の秋田駒ヶ岳火山の地熱活動」

著者：狐崎長琅・村岡 淳

秋田駒ヶ岳火山の女岳は1970年9月に突如噴火しました。翌年1月の噴火終息後、火口の冷却と共に、周辺域が高温化しました。その地熱活動は1977-79年頃を最盛期として、漸次減退し、1995年頃までにはほぼ平常化しました。しかし、2006年頃から地熱活動は復活し、現在なお進行中で、その動向が注目されています。本研究では、1975年以後2013年まで、この火山の状態を地温、重力、全磁力等の定点反復観測により追跡しました。そのことについて、総括的に報告します。現象の推移をたどることで見えてくるものもあります。女岳では地温の低下と共に重力は増加し、全磁力も特有の変化をしました。それらは、比較的低温（水の沸点未満程度）での温度変化による地層の熱膨張効果と磁化変化によるものと概ね解釈されました。

10. 論説「始良火砕噴火のマグマ溜まり深度」

著者：安田 敦・吉本充宏・藤井敏嗣

2万9千年前の始良火砕噴火をもたらしたマグマ溜まりの上部が、深さ4~5km程度の地殻浅部にまで広がっていたことが斑晶とメルトインクルージョンの分析から明らかになった。これは、従来の見積もりである深さ8~10kmよりもかなり浅い。また、マ

グマは水に飽和しており、これらのことがカルデラ形成に到るような大規模な噴火につながった要因と考えられる。

11. 寄書「霧島火山新燃岳2011年準プリニー式噴火における降下火砕堆積物の粒度変化」

著者：入山 宙・寅丸敦志

九州南部霧島火山群新燃岳火山は2011年1月に3回の準プリニー式噴火を起こしました。3回の噴火は観測から区別されていますが、降下火砕堆積物の層序からは1回目と2回目の噴火イベント境界の識別が困難でした。今回粒度分布の鉛直変化を詳細に調査した結果、噴火イベントに対応すると思われる粒度分布の鉛直変化が得られました。結果から推定された堆積物のイベント境界が、詳細な噴火遷移の理解に役立てば幸いです。

12. 口絵写真「御嶽山2014年噴火」

著者：及川輝樹・山岡耕春・吉本充宏・中田節也・竹下欣宏・前野 深・石塚吉浩・小森次郎・嶋野岳人・中野 俊

2014年9月27日に発生した御嶽山噴火について、直後の空撮写真や11月の山頂調査の写真とともに、噴火のあらましを紹介します。

日本の火山活動概況（2015年4月~6月）

その他のニュース

学会記事

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月16日送信しました）

○訃報

本学会名誉会員の勝井義雄北海道大学名誉教授は、去る10月20日、老衰のため享年90（満89歳）にてご逝去されましたことを、ここに謹んでお知らせ申し上げます。なお、葬儀、繰り上げ法要等はすでに家族葬にて滞りなく終えられており、故人並びにご遺族の意思により、ご厚志は固くご辞退されておられます。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月24日送信しました）